

米沢有為会

東京支部だより

発行／(公社)米沢有為会東京支部 発行人／鈴木 信之 発行日／令和2年12月20日
〒182-0004 東京都調布市入間町1-36 東京興譲館内 TEL/FAX 03-3309-3302
米沢有為会ホームページ <http://www.yonezawa-yuuikai.org/>

卷頭言

故我妻堯先生の想い出

— 軽井沢の夏の風 —

興譲館高校 昭和43年卒

草刈 章



この度、卷頭言執筆の光栄な役目を仰せつかり、「はて何を書こうか」と思い、米沢有為会のホームページを覗いていたところ我妻堯先生が令和2年5月15日にご逝去されたとの知らせがあり残念ながら駆られました。私は大年5月15日にご逝去されると申しますのも、私は大学に入った最初の夏休みに我妻堀先生のご一家と軽井沢の別荘で一夏を過ごさせていただいたと、いふ経験があつたからです。この場をお借りして、先生に感謝と哀悼の誠を捧げたいと思います。

私は2歳で父を病気で亡くしたため、母が女手一つで私と姉を育てるようになります。生活はよく、私も小学校5年生から夕刊配達、中学生になると、高校に入つて自頼奨学金貸与の一期生に選ばれました。そのために勉学に専念できることになり、そのお陰で、

で福島県立医科大学に現役で入学することができました。学費、生活費は各種の奨学金とアルバイトで賄わなければなりませんので、夏休みになる前、さたある日学習院大学法学部の教授をしている遠藤浩おじ（母の従兄弟）から「我妻堀先生が軽井沢の別荘で育ち、力仕事をしてくれる学生を探している。お前やつたう和やかで楽しい生活でした。堀先生は大変お忙しく、共に食事をいたくだくといらう」との連絡が入りました。「こんな有難いことがあります」とはないと、思いましたが、社会的貧しい家庭で育ち、社会的経験も乏しい私に務まるか、経験も乏しい私が務まるか、など不安もありました。

私は長女である美佐子さんと一緒に、夫の学さんと一緒に、筆者と一緒に、軽井沢の別荘で過ごしました。実は我妻堀先生のご一家と過りました。私は軽井沢を後にしましたが、我妻堀先生ご一家と過去には軽井沢を後にしました。今は、軽井沢を後にして、また夏休みの最終日があります。夏休みの最終日には、軽井沢を後にしましたが、我妻堀先生ご一家と一緒に、軽井沢を後にして、また夏休みに入つてからは豆腐店でアルバイトをしました。高校に入つてから夕刊配達、中学生になると、軽井沢の別荘で育ち、力仕事をしてくれる学生を探している。お前やつたう和やかで楽しい生活でした。堀先生は大変お忙しく、共に食事をいたくだくといらう」との連絡が入りました。「こんな有難いことがあります」とはないと、思いましたが、社会的貧しい家庭で育ち、社会的経験も乏しい私に務まるか、経験も乏しい私が務まるか、など不安もありました。



昭和49年夏の軽井沢のある日
左が堀先生のご長女のお母さん
中央がご長男の学さん、右が筆者

、石神井にある先生のご自宅に伺いました。門から玄関まで70～80mの小道を歩いたかと思うほど広大な敷地でした。その翌々日に特急電車で軽井沢に行きました。別荘は広い敷地にあります。山荘風の建物で、住人は先生ご夫妻と愛犬2匹、ご次男の堀先生の奥様とご長女の美佐子さんとご長男の学さん、家の中の仕事をする若い女性一人と私という構成で、ひとつテープルの教授をしている遠藤浩おじ（母の従兄弟）から「我妻堀先生が軽井沢の別荘で育ち、力仕事をしてくれる学生を探している。お前やつたう和やかで楽しい生活でした。堀先生は大変お忙しく、共に食事をいたくだくといらう」との連絡が入りました。こんな有難いことがあります」とはないと、思いましたが、社会的貧しい家庭で育ち、社会的経験も乏しい私に務まるか、経験も乏しい私が務まるか、など不安もありました。

私は長女である美佐子さんと一緒に、夫の学さんと一緒に、筆者と一緒に、軽井沢を後にして、また夏休みの最終日には、軽井沢を後にして、また夏休みに入つてからは豆腐店でアルバイトをしました。高校に入つてから夕刊配達、中学生になると、軽井沢の別荘で育ち、力仕事をしてくれる学生を探している。お前やつたう和やかで楽しい生活でした。堀先生は大変お忙しく、共に食事をいたくだくといらう」との連絡が入りました。「こんな有難いことがあります」とはないと、思いましたが、社会的貧しい家庭で育ち、社会的経験も乏しい私に務まるか、経験も乏しい私が務まるか、など不安もありました。

お礼を申し上げたいと思つたが、それも叶わぬことになりました。慎んで先生のご冥福を祈り、哀悼の意を捧げます。合掌

プロフィール

昭和24年6月2日生
昭和49年3月福島県立医科大学卒業、東北大学附属病院小児科に勤務。52年4月から都立清瀬小児病院に勤務

62年2月に現地に小児科診療所を開設、現在に至る。

昭和49年3月福島県立医科大学卒業、東北大学附属病院小児科に勤務。52年4月から都立清瀬小児病院に勤務

62年2月に現地に小児科診療所を開設、現在に至る。

第29回文化大学

令和元年11月
於・東京興譲館

光で身体を診る

山田 幸生

電気通信大学名誉教授・東京大学特任研究員

(講演内容)

X線断層撮影(X線CT)や磁気共鳴イメージング(MRI)など、非侵襲で身体の中の状態を調べる技術が日常的に利用されていますが、光を使ってより簡便に外から身体の中を調べる技術も発達しています。

本講座では光、特に近赤外線を使った生体診断技術の現状と研究を紹介しました。

光、いわゆる可視光(波長400ナノメートル(nm)(紫色)から700 nm(赤色)まで。1nmは百万分の1ミリメートル(mm)。)は、血液により強く吸収されるため体表から数mmより深いところには届きません。ところが、血液による光の吸収は波長が長くなると、つまり、赤色に近づくにつれて弱くなります。赤色よりも波長の長い光が赤外線ですが、中でも赤色に近い近赤外線(波長700 nmから1500 nmぐらいまで)では血液による吸収がさらに弱くなり、身体のおよそ5 cmの深さまで届くという特徴を持っています。人の身体が透明でないのは光が吸収されるだけでなく強く散乱されるからです。散乱とは光が微粒子などに当たって進行方向が変わる現象です。

一方、酸素を多く含んだ動脈血は鮮紅色で、酸素が少ない静脈血は暗赤色ですが、色の違いは可視光を吸収する強さが波長によって異なるからです。近赤外線に対しても動脈血と静脈血では吸収の強さが波長によって異なります。つまり色が違います。体内の血液の色を体外から近赤外線を使って調べることができれば血液中の酸素の量が分かります。この原理を用いて血液の状態や脳活動などを調べることができます。「光で身体を診る」技術は、生体の深部に到達する近赤外線を用い、近赤外線に対する色を調べることが基本です。

この原理を利用して小型の機器がパルスオキシメーターです。「パルス」は脈拍を、「オキシメーター」は酸素計を意味し、指に挟むと動脈血の酸素飽和度と脈拍数を表示します。酸素飽和度は血液が含むことができる最大

の酸素量に対する実際の酸素量の割合で、動脈血の酸素飽和度は95%以上が正常とされ、肺が十分に機能して血液に酸素が与えられているかどうかを判定できます。新型コロナに感染して肺機能が落ちているにも関わらず自覚症状が無い場合でも、パルスオキシメーターで動脈血の酸素飽和度を測ると95%以下になっていて治療が必要と診断されたことが報道されていました。パルスオキシメーターは小さな診療所から大病院まで、救急車や介護施設でも広く使われており、青柳卓夫氏が1970年ごろに世界に先駆けて開発した日本が誇るべき機器ですが、残念ながら広く実用化させたのは米国企業でした。

同じ原理に基づいて脳活動を画像化するのが光トポグラフィーです。頭部表面の1点に近赤外線を照射すると、近赤外線は皮膚、頭蓋骨を通って脳に達します。その一部は散乱により進行方向が変わり頭部表面に戻ります。脳の一部が活動するとそこには血液が多く流れて近赤外線がより強く吸収され、頭部表面に戻る近赤外線の強さが少し変化します。その変化量を頭部表面で計測すれば脳活動を画像化することができます。この技術は1995年ごろに日立製作所によって世界で初めて開発され、脳機能の研究、子供の脳の発達、脳障害からのリハビリテーション効果など、色々な分野で応用されています。

近赤外線が生体組織により散乱される現象を利用した技術も開発されました。光干渉断層法(OCT)と呼ばれる技術で、網膜の深さ方向の画像を瞬時に撮影することができ、眼科では欠かせない診断装置になっています。この技術は1990年ごろに日本と米国でほぼ同時に発明されました。しかし、残念ながら実用化は米国が圧倒的に先んじました。

ほかにも近赤外線を用いた新しい診断技術が研究開発されつつあり、人々の健康維持・増進に大いに貢献すると期待されています。

なお、講演の詳細は次の米沢有為会のホームページからご覧いただけます。

http://www.yonezawa-yuuikai.org/pdf/2019_bunkadai_siryou.pdf

(プロフィール)

1966年米沢興譲館高校卒。1973年東京工業大学大学院修了。1974年工業技術院機械技術研究所。2001年電気通信大学教授。2013年定年退職。主に生体医用光学の研究に従事。

東京興譲館寮 現在の状況

四月には、当寮は十名の新入生を迎えてスタートしました。東京での生活に期待を寄せ、上京して来た一年生です。

しかし四月の緊急事態宣言により、全員が集まる機会がほとんど無く、そのまま山形に在住している寮生もいます。

当初は緊張感が非常にあり、ストレスを感じることが多かつたのを覚えています。

十月末現在では、今のところ一人も感染者を出さず、寮生全員が健康でいます。マスクの着用、帰館した際の手洗いの徹底、食事では間隔を空けること、換気を頻繁に行うことなど、当たり前の事の積み重ねが重要だと感じています。

前期はほぼ全員がオンライン授業を受ける形となりました。大学へ行かずに、PCやタブレットなどを見続ける生活が続いています。課題や提出物もパソコンでできるため、楽な面もありますが、大學の友人に会う機会が減少し寂しい気持ちも在るのが本音です。後期は対面式の授業も始まり大部分の学生が寮に戻っています。



室内の改修工事では、窓のアルミサッシュと可動式の網戸の取付がなされました。また各階のガスコンロや給湯器が新しくなって、利便性が高まり、寮生一同大変嬉しく思っています。窓のサッシュ工事によって防音性が上がり、隙間風が入らなくなりと、以前よりも過ごしやすくなりました。

久々の集合

大西 ひかる
(明治大学理工学部、米沢興譲館高校)
大学には、スポーツ特別入試で合格しました。フエンシング部に所属し、学業との両立に励もうと思っています。将来は、一級建築士の資格を取り、例えば法隆寺のような日本の木材を利用した地震に強い建築物を設計していくたいと考えています。そのために、年代や場所を問わず様々な建築を学んで行きたいです。多くの方々と協力して、使用者に喜ばれる建物を造つて行きたいと考えています。

金田 凌

(杏林大学医学部、長井高校)

将来的に、山形県の地域医療に医師として貢献したいと思い、入学しました。今現在は基礎医学を学んだり、実習を行つたりする日々が続いています。今後は臨床医学の講義が始まり、覚えなければならない知識の量も膨大になりますが、経験豊富な先生方の下、将来自分がどのような道に進んでいきたいかを念頭に置きながら日々の研鑽に努めています。

後藤 翼

(東放学園音響専門学校、米沢中央高校)

私は、マネージャーになりたくてこの学校に入学を決めました。高校生のときに、生徒会総務部に所属し学校行事などの運営をして誰かが楽しめる場所、アーティストが最高のパフォーマンスを出来る場を作る事が楽しく、将来そういう仕事の場に就職したく上京して学校に通っています。将来、マネージャーになつてアーティストと一緒に成長し一緒に夢を叶えたいと思っています。

鈴木 龍太郎

(東京農工大学工学部、米沢興譲館高校)

私が東京農工大学に入った理由は、機械工に働く摩擦を研究し、その知識を口ボソト製

新入寮生「私の抱負」

「私の抱負」

作に役立てたいと思ったからです。学生時代にやりたいことは、大学での幅広い知識の修得と、自分の趣味を通して人付き合いに慣れることです。また、コロナの影響で寮の生活にまだ慣れていないので、寮の仕事を面白目に取り組みたいと思います。将来は大学で学んだことを生かして、エネルギー効率の良い長寿命な機械の制作に携わりたいと思います。

瀬野 陽生
(明治大学商学部、山形市立商業高校)
私は、商業高校出身のためそこで学んだ知識を活かすとともに、新たな分野に対する見識を身に着けたいと考えました。私は将来商社への入社を切望しており、そこで貿易関係の仕事に携わり海外を中心に活躍できればと考えています。現在、語学や世界的な貿易情勢について学習を進めていますが、オンライン授業ということで十分な学びを得られていないよう感じています。一刻も早く対面授業が再開し、教授、学友、そして大学というまだ見ぬ環境から刺激を受けて自分を高められることを願つてやみません。

大西 ひかる
(明治大学理工学部、米沢興譲館高校)
時代にやりたいことは、大学での幅広い知識の修得と、自分の趣味を通して人付き合いに慣れることです。また、コロナの影響で寮の生活にまだ慣れていないので、寮の仕事を面白目に取り組みたいと思います。将来は大学で学んだことを生かして、エネルギー効率の良い長寿命な機械の制作に携わりたいと思います。

瀬野 陽生
(明治大学商学部、山形市立商業高校)
私は、商業高校出身のためそこで学んだ知識を活かすとともに、新たな分野に対する見識を身に着けたいと考えました。

私は将来商社への入社を切望しており、そこで貿易関係の仕事に携わり海外を中心に活躍できればと考えています。現在、語学や世界的な貿易情勢について学習を進めていますが、オンライン授業ということで十分な学びを得られていないよう

に感じています。一刻も早く対面授業が再開し、教授、学友、そして大学というまだ見ぬ環境から刺激を受けて自分を高められることを願つてやみません。

高橋 勇輝

(東京大学理科一類、米沢興譲館高校)

私は大学で人工知能を使つたセキュリティシステムの研究をしたいと考えていた。それに関連した研究が東京大学で行われることを知り、この大学に入学しました。大学ではそうしたセキュリティのことや、人工知能の学習機構について学びたいと思っています。また、寮生活では、自治寮ということを活かして、寮生の方々と協力しながら、自分の意志で責任をもつて行動できるような力を養つてきたいです。

新入寮生

「私の抱負」

土井 匠

(日本大学スポーツ科学部、米沢中央高校)

私は、スノーボードハーフ競技を行つています。現在ハーフ競技でナショナルチームに入れるように頑張っています。全日本一位となつた経験を活かし世界に出たいと思って努力しています。将来は、指導者の道を含めて広く活躍したいと考えています。まずはオリンピックやX-GAMESを目指しています。

二宮 渉

(電気通信大学情報理工学域、米沢興譲館高校)

私はこの大学で身に着けた知識や技術を社会に還元できる研究者になりたいと思っています。あらゆるもののが目まぐるしく変わることの時代に、後世にも受け継がれていくような創造物を残すことが目標です。そのためにも、大学では己を律し、ひたむきに学問と向き合つていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

我妻 恵多

(東京都立大学理学部、高畠高校)

私は、もともと暗号に興味を持つており、大学で暗号のことについて研究したいと考えていました。東京都立大学で、暗号理論の研究をしていると知り、この大学に入学したいと思いました。また、私は将来高校の数学の教師になりたいと考えていました。それで理学部数学科に入り、数学を極めたいと思い、この二つの理由で本学に入学することに決めました。私は、夢を実現するためにこの四年間頑張つていきたいと思います。

新入会員

大田 勇



皆様、はじめまして。この場を借りて入会のご挨拶をさせていただきます。

私は米沢市生まれ、平成六年に米沢興譲館高校を卒業、東北大学理学部に進学し、4年間にわたり仙台興譲館寮でお世話になりました。大学卒業後は上京し、総合商社で仕事をしております。さて、故郷を離れて久しうになりますが、帰省するたびに活気が失われていく様を目の当たりにしてきました。今から振り返ると、若い時は、故郷を飛び出した身としてどこか後ろめたい気持ちがあり、何か心にひつかかりながらも、気持ちに蓋をして地元との関わりを避けてしまっていたように思います。しかし、歳を重ねるにつれ深まる郷愁の想いとともに、今の自分を育ててくれた故郷に恩返しをしたい、また、外にいる自分だからこそできることもある

のではとの気持ちが強くなり、まずは会させていただきたいと思い、このたび入会させていただきました。

今はコロナ禍のため、多くの行事・会合が中止となっていますが、この逆境にこそチャンスがあると感じています。例えば、Web会議が急速に普及し、どこでも誰でも気軽に集まつて話し合いが出来る環境になりました。これを活用し、より敷居が低くて参加しやすい、開かれた会にすることで、本会の活動に関与する仲間を増やすポテンシャルも十分にあるのではないかと想います。ヤルも十分にあるのではないでしようか。「故郷に貢献したい」と思つてゐる(私のような)人は多く、ただ次の一步がなかなか踏み出せないというのが実態です。それを打破するチャンスが今来たのかもしれません。これまでのやり方、慣習に囚われない発想で、微力ながらお役に立てることがあるかと期待しております。今後、宜しくお願いします。



東京興譲館の第一段階の改修工事

東京支部 支部だより

▲コロナ感染防止のため平成二年会は中止

このため東京支部の「定期総会」で議決するべき令和元年度の事業及び決算報告、令和二年度の事業計画(案)及び予算(案)は監事の監査報告書を以つてしました。東京興譲館は十名の新入寮生を迎えたが、各大学の入学式も軒並み中止となりました。残念ですが支部の新入寮生歓迎会も中止としました。

▲コロナ感染防止のため園遊会も中止

会員やそのご家族・お友達の方が楽しみしている芋煮会もコロナ感染防止のため中止としました。

▲東京興譲館の第一段階の改修工事について

米沢有為会創立130周年記念事業として東京興譲館の改修工事をはじめました。

勉学環境の改善のために、寮室のサツシューの交換と固定式網戸を可動式にする。外部庇防水・塗装。庇笠木の金属化。外壁タイルの劣化によるタイル落下防止の補強工事。工事は、十月一日より開始して年内には終了します。

工事代金は、総額千七百五万円です。寮室内のリニューアル工事は、コロナ禍のため次年度以降に延期する。

▲支部理事会の開催について
支部理事会の開催について
コロナ禍における支部理事会在ZOOM形式で開催します。

本の紹介

「生を踏んで恐れず」著者 津本 陽

高橋是清の生涯 発行所 幻冬舎

金融恐慌のさなかに死を覚悟で己の信念を貫いた政治家の生涯である。

是清は、様々な職業を転々として、経済の専門家でもないが、銀行界に入ると一国の財政を担う大きな存在に成長した。

是清が日銀副総裁のとき、日露戦争の戦費十三億余の莫大な公債をロンドン・アメリカ・ドイツ・フランス市場で起債したものである。日露戦争の戦費を外國で借りるのは、是清でなければ出来ない至難の業であった。ユダヤ人でアメリカ人の富豪シフや同じくユダヤ人でヨーロッパ有数の富豪ロスチャイルド家から大きな支援を取り付けている。

日露戦争の講和条約で日本が賠償金を放棄した背景がよく分かる本である。八十一歳の是清は、昭和九年に七度目の大蔵大臣に就任する。満州事変以後、軍事費は激しく膨張を続けていた。是清は、昭和九年の議会では、「今日の国際間の競争は、兵器によつて戦争するばかりではない。経済上の闘争が日増しに激しくなつてゐる。經濟上でいかに日本を苦しめるかという目的で、各國がお

なり傾向の処置を取るのは、軍艦をもつておこなう共同作戦よりも、もつとたやすく巧妙におこなわれる。

これが経済戦争である。日本の輸出品を排斥し、日本を経済的孤立の窮地に立たせようとする動きを防ぐには、外交工作によらねばならない。

わが国の外交工作に対し列国に相当敬意を持たせるには、国の防御のための相当な兵備がなければならない。戦争を避けるためではない。戦争を避けるための外交工作を充分効果あらしめるためである。是清は、ただちに戦争をするた

めではない。戦争を避けるためには、たゞ一歩進むだけであると思うのは、正気の沙汰ではない。自衛のための戦力を備えておれば充分ではないか。」是清はいつ死んでもいいと覚悟を決めていた。

明治憲法第十一條に「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」と規定され、統帥権は政府、一般國務からも独立していた。軍部はそれによって独自に外国への派兵、動員、兵力行使を行う権限を有した。それでも国家予算を無視し、強引な軍事予算獲得強行すれば、日本の政治理体制は崩壊するとして、統帥部は国家予算を司る政府に協力すべきであるといふのが従来の軍部の考え方であつた。

だが、永田鉄山、河本大作、石原莞爾、東条英機ら陸大卒業組の幕僚たちは、従来、天皇のもとで平等に権限を分担第一線で直接兵士を指揮していた内閣、議会を軍部に従わせ、國家総力戦体制を敷こうとした。

本銀行総裁として日本経済を支えた人である。先の戦争は、人的にも物的にも大戦闘だった。あらゆる資源が先の見えない戦争につき込まれた。結城は、日華事変の勃発した年である1937年(昭和12年)2月に蔵相に就任し、同年7月に日銀総裁となつて44(昭和19)年3月まで、軍事最優先の世の中でなんとか日本経済を破綻させないようとにかく取りを行つた。

記念館の展示には、結城と高橋は山形中学時代、「華族銀行論」で全国懸賞論文コンクール等賞を取つたほど金融への志が強かつた。ところが、結城が大学を卒業した1903(明治36)年には日本銀行を公然と批判する軍部を恐れ、本音を言う者はいない。

銀行は大卒の新規採用を行つていなかった。結城は副総裁の高橋との面会がかなつた際、初対面の高橋の袖をつかんで入行を強引に頼み込んだのだ。その高橋が蔵相となり、36(昭和11)年の2・26事件で暗殺された1年後に後を継いだのが結城だった。今日のわが国の最優先課題は、新型コロナウイルス対策である。感染爆発が起つてから、国民生活も活動を制限しながら、国民生活も破綻しないようにと財政・金融政策が総動員されている。それでも、経済の落ち込みは先の戦争以来のこと。そして、コロナ後には、先の戦争以来の財政悪化が待つて

ことはできないと、彼らは考える。

昭和十一年一月、憲兵隊は満州移駐が決まつた第一師団の皇道派将校の動きを注視していた。三菱の情報機関から憲兵隊隊に、「彼らが、二月二五日頃、事件を起こすかも知れない。」の通報があつた。

二月二十六日午前五時頃に高橋邸に到着した近衛第三連隊中尉、中橋基明が指揮する軍隊に襲われた。是清は、銃弾数發を身に受け即死する。

大蔵省では蔵相官邸の警備を厳しくした。これらの配慮は、数名の凶漢に備える程度であつた。

二月二十六日午前五時頃に高橋邸に到着した近衛第三連隊中尉、中橋基明が指揮する軍隊に襲われた。是清は、銃弾数發を身に受け即死する。

この夏、考えたこと

国家公務員共済組合連合会理事長 松元 崇



新聞記事より

結城豊太郎記念館訪問記



恐れず踏んで 生を踏んで 恐れず

Tsumoto Yo



転職二十回。十四歳で留学したアメリカでは奴隸に売られ、日本では相場師から首相までを経験した高橋是清。昭和初期の金融恐慌を鎮めるなど蔵相七回をつとめ不世出の政治家は、後に二・二六事件に倒れる。労苦と挫折を糧に卓越した人間像を何度も決断したか。渾身の力作評伝。

幻冬舎文庫

高校へは羽前小松駅から西米沢駅までの汽車通学生でした。冬の三学期は、雪や寒さで下宿しました。米沢市内にある「海応院」と「林泉寺」の兼務住職をする母きくの従兄西山法運老師に頼み「林泉寺」を下宿屋にしました。もともと「陽源院」、高橋俊龍（東京都副知事）弟の秀暁白鷗町（高円寺）は林泉寺の末寺で法類（寺の親戚）又林泉寺は上杉家の菩提寺で墓には室の菊姫の墓はじめ主に女性の仏が葬られております。寺の留守番役は住職が甥っ子に当る伯母さんですから気が楽で下宿代もタダでした。上杉名誉会長にお礼を申し上げるべきかなーと思つたりするご縁です。

蛇足ですが、お袋は法運老師のお世話で陽源院に嫁ぎ小室の菊姫の墓ははじめ主に女性の仏が葬られております。寺の留守番役は住職が甥っ子に当る伯母さんですから気が楽で下宿代もタダでした。上杉名誉会長にお礼を申し上げるべきかなーと思つたりするご縁です。

プラス（1）、生まれ育った小松町中小松（当時）には金子芳雄・利雄・光子（陽源院檀家）井上京七（樽平社長）井上ひさし（作家）の諸先輩がおられました。（2）、後藤源（山形県議会議員）安部三十郎（前米沢市長）は再従兄弟（はとこ）といいう按配。（3）、親父宗雄の弟米野尚生。三は北海道大学農学部時代舍

で下宿しました。米沢市内の兼務住職をする母きくの従兄西山法運老師に頼み「林泉寺」を下宿屋にしました。もともと「陽源院」、高橋俊龍（東京都副知事）弟の秀暁白鷗町（高円寺）は林泉寺の末寺で法類（寺の親戚）又林泉寺は上杉家の菩提寺で墓には室の菊姫の墓はじめ主に女性の仏が葬られております。寺の留守番役は住職が甥っ子に当る伯母さんですから気が楽で下宿代もタダでした。上杉名誉会長にお礼を申し上げるべきかなーと思つたりするご縁です。

以上米沢有為会百三十年、戦後七十五年目のお盆を迎え、亡きご縁をいたたく諸先輩の靈に合掌低頭させていただきます。

五木寛之（作家）の「大河の一滴」（著書名）ほどの老生がコロナの「三密」巣ごもり暇を活用して紙面を私物化し、ホザイテしました。

カタデ不調法ナ！
(令和二年八月十五日記)

（4）、米野家当主「米野弥藤太」は川中島の戦いに出陣、慶長六年（一六〇一）景勝公滅封により米沢に移り、現在は飯豊町に本家があり、薙刀、古文書など先祖を語る宝物があります。

（5）、海応院の「位牌堂」は加藤家が羽振りが良かつた時代に寄進した建造物。

（6）、現在の加藤家当主「涉」は米沢市で（株）メゾン、（有）住研の代表取締役として婆婆世界で生きております。

わが影を巨人と化して冬ゆふべ 太田甘美
校庭の花壇に猫や日脚伸ぶ
(令和二年年度作品から)
新型コロナ禍のため句会は三回のみ。

俳句同好会 「漆の実」



春一番斜めに揺れておさげ髪 片山丹波
いつときの初雪いつときの至福 小山八州史
寒の餅仕上げの杵は祖父頼み 佐野 真
木ベンチに伐り紫陽花よ御自由に
紫陽花や地より昇れる水の色
乳離れ苺を舐める神妙さ
腰重のジップシーの唄春浅し 濱田扇風
鶯や語尾に少しの国訛り
打つ豆にただ坐して受く節分会 松原薰子
春怒涛姿勢正しき琵琶奏者

FAX 042-463-7453
入会ご希望の方 米野宗楨あて
電話 080-1086-5688
テキスト代実費

濱田扇風
松原薰子

衛星「おおすみ」と風蘭



我が家に一鉢の風蘭（富貴蘭）があり、今年も可憐な花を咲かせました。この風蘭の由来をお話しよう。

今からちょうど50年前の昭和45年（1970）、鹿児島県の大隅半島にある内之浦という町の太平洋を望む高台から日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられました。



ロケットの打ち上げというと、種子島と思われる方が殆どかもしれません。私が「内之浦でロケットを上げていま

す」と言うと、「エッ、そんな危ない！」と言われたのは実話です。「内之浦」「うち（家）の裏」と間違われたのでした。

内之浦は「おおすみ」打ち上げの頃、人口は約5000人、漁業が主産業で、町の道路は未舗装、交通信号は一つもなく、裸足の子供たちが私

たちロケット実験班に対しても、元気よく「おはようござります！」と挨拶してくれる良き時代の小さな町でした。

鹿児島宇宙空間観測所（通称・実験場）の私達は、そんな暖かい町の人達からの支援がなければ、時に年間100日以上に及ぶ長期滞在してのロケット打ち上げ実験に専念出来なかつたことは間違いありません。日本初の人工衛星

出来なかつたことは間違いありません。日本初の人工衛星がなれば、時に年間100日以上に及ぶ長期滞在してのロケット打ち上げ実験に専念出来なかつたことは間違いありません。日本初の人工衛星

婦人会2代目の会長橋本雅子さんは、昭和41年（1966）小生が始めて内之浦に行つた時、若く見えたらしく

の存在でした。

吉野村（現南陽市）にあつた鉱山における石膏原石の採掘が始まります。創業して百年以上になり大企業に成長しています。それでも私の出身地

吉野村（現南陽市）にあつた鉱山における石膏原石の採掘が始まります。創業して百年以上になり大企業に成長しています。それでも私の出身地

提灯行列、その後も衛星打上げ前日には必ず成功祈願の千羽鶴を届けてくださるだけではなく、場内各建屋の掃除や実験班の昼食の世話など「かご

つまおごじょ」の本領を發揮して、打ち上げ成功にはなく

羽鶴を届けてくださるだけではなく、場内各建屋の掃除や実験班の昼食の世話など「かごつまおごじょ」の本領を發揮して、打ち上げ成功にはなく羽鶴を届けてくださるだけではなく、場内各建屋の掃除や実験班の昼食の世話など「かご

つまおごじょ」の本領を發揮して、打ち上げ成功にはなく羽鶴を届けてくださるだけではなく、場内各建屋の掃除や実験班の昼食の世話など「かご

つまおごじょ」の本領を發揮して、打ち上げ成功にはなく羽鶴を届けてくださるだけではなく、場内各建屋の掃除や実験班の昼食の世話など「かご

上杉邦憲 米沢有為会 名誉会長

植物が50年以上経った今に

至るまで、毎年初夏になると変わることなく可憐な花を咲かせていました。なんという生き力でしょうか。

まさに「年年歳歳花相似歳歳年人不同」で、私も「はやぶさ」の打上げを最後に内之浦へ行く事もなくなり、惟義さんもすでに鬼籍に入られました。しかしながら、

一年に一度この白い風蘭の花が咲くと、内之浦の人達との熱い交流や様々な出来事が懐かしく思い出されます。

支部会員の皆様へ

令和三年の新年会・予餞会は
新型コロナウイルス拡大防止
のため中止とさせて頂きます。

編集委員メンバー
委員長……………川合 勝雄
米野 宗禎／佐藤 好明
鈴木 信之／倉田 和子
太田ひろみ／濱田 吾愛
近藤 郁子／宮坂 孝夫

▲卷頭言は、小児科医で本会諮詢委員の草刈章氏に「我妻堯先生の想い出」について書いていただきました。▲米野宗禎氏の「縁は異なるもの味なもの」で吉野石膏（株）の初代社長須藤永次氏を知りました。吉野石膏（株）の創業は、明治三十四年です。吉野村（現南陽市）にあつた鉱山における石膏原石の採掘が始まります。創業して百年以上になり大企業に成長しています。それでも私の出身地である創業地（南陽市荻地区）を忘れることがなく、森づくりに貢献して頂き市民の憩いの場となっています。また南陽市行事の協賛企業にもなっています。

▲南陽市赤湯の結城豊太郎記念館を訪問された松元崇氏の新聞記事を読みました。その中で高橋是清と当会第六代会長結城豊太郎のエピソードが書いてあつたので引用させてもらいました。（K・K）

編集後記